

日本地理全誌 飯島半十郎輯

四

特31  
455  
函架一八册五

第七百四十六號  
共五冊

書庫用經之

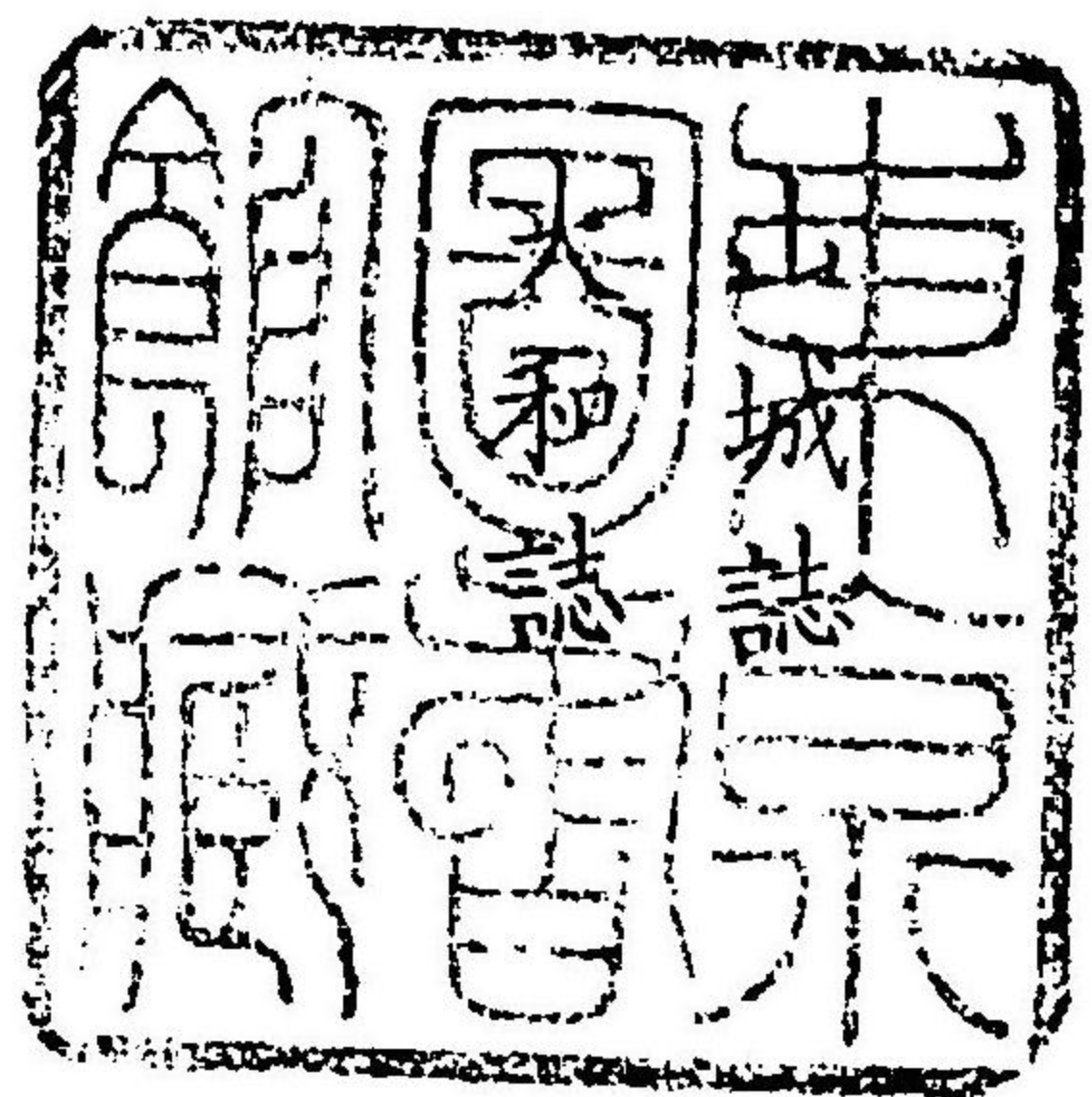
特31

455

前書山 部 學 政

章局 部 本

地理全誌卷之四



地理全誌 卷之四 目次

山之城關  
YAMASHIRO.

丹波

近江

摂津

河内

伊賀

大和

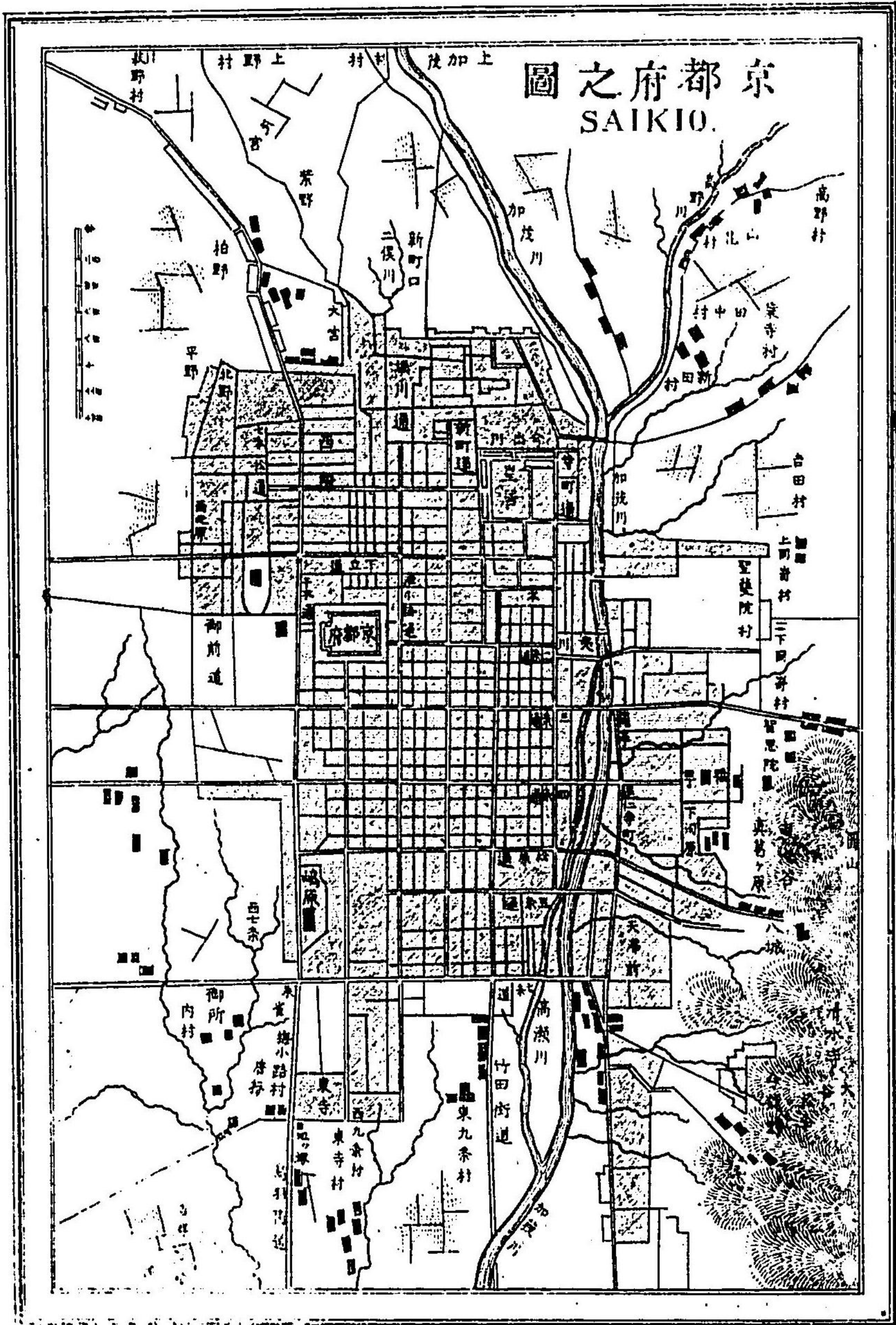
度四西

度四西

三十五度

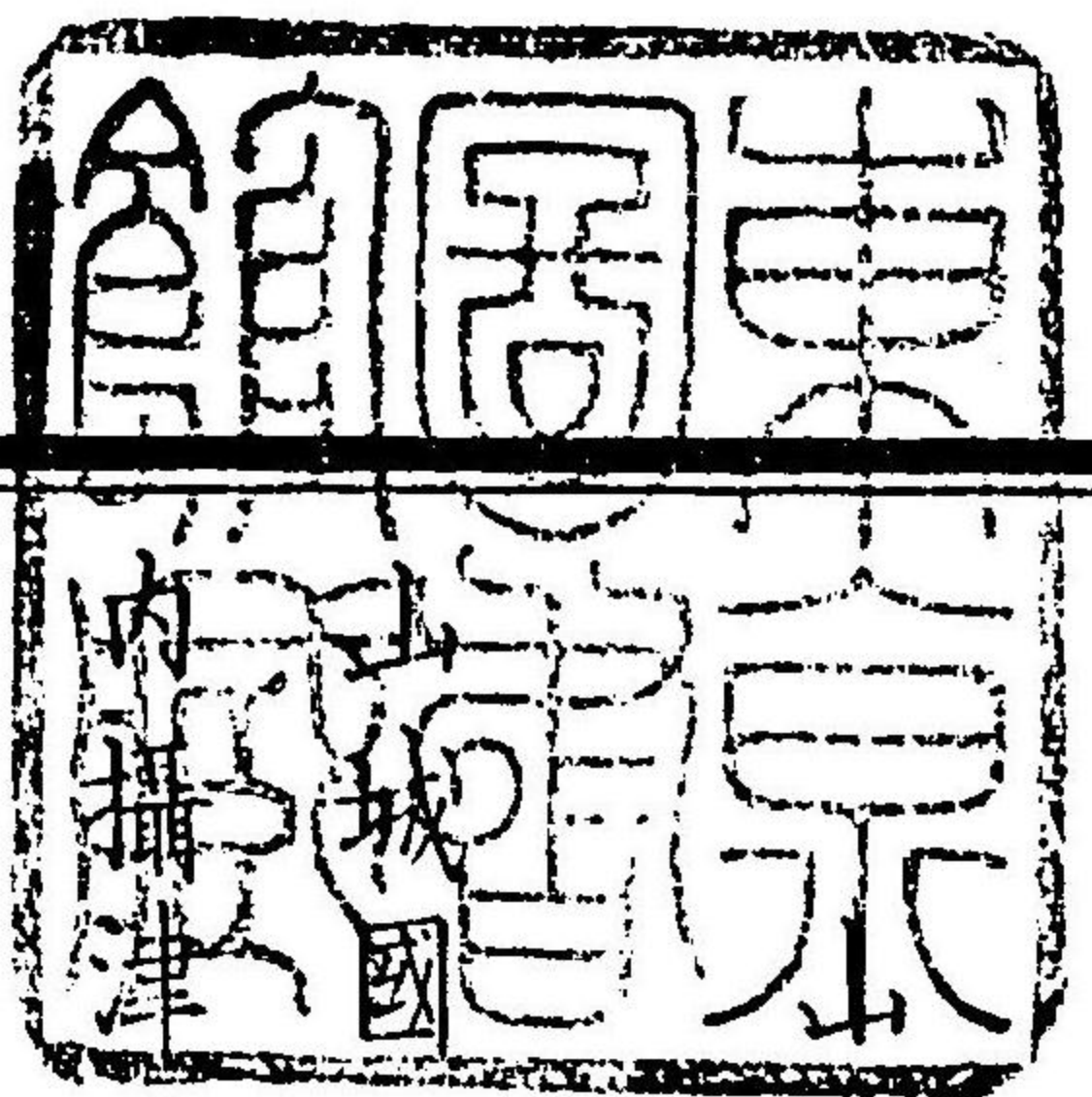
三十五度





京之府 SAIKIO

日本地理全誌卷之四



城誌

位置

ハ東南ハ近江伊賀大和ニ接シ、西北ハ河  
内攝津丹波ニ界ス、全國ノ地勢三面皆山ニシテ  
南一面平坦ナリ、山城上古山背ヤマシロ或ハ山代ヤマしろ或ハ開  
木代ニ作ル、桓武天皇都ヲ葛原ニ遷シ詔シテ曰  
久此國ハ山河襟帶シ自然城ヲ成ス、故ニ改メテ  
山城トシ、都ヲ平安城ト名ツクト、承和三年勅シ

テ畿内ノ次第ハ、上古ヨリ大和國ヲ首ニ置レレ  
ガ、改メテ山城國ヲ六十餘州ノ冠首トセヨト云  
ヘリ、後白河天皇ノ時、新院崇徳上皇ナリ重祚ノ志アリ、  
左大臣頼長其謀ヲ贊シ、源為義等ヲ引キテ其黨  
トス、天皇為義ノ長子源義朝及平清盛等ヲ遣レ  
テコレヲ討タレム、コレヲ保元ノ亂ト云フ、是我  
國大亂ノ階ニシテ大權ノ武門ニ歸スル、此ヨリ  
始マル、後源義朝藤原信賴ト兵ヲ舉ケテ亂ヲ作  
シ、清盛ト戦ヒ軍敗レテ東ニ奔リ、人ノ為ニ殺サ  
レテ事平ク、コレヲ平治ノ亂ト云フ、源頼朝ノ興

ル平氏安德天皇ヲ挾ミテ西海ニ遁ル、頼朝ノ弟  
義經コレヲ討チ威名一時ニ震フ、其後順徳天皇  
ノ時、後鳥羽上皇兵ヲ徵シテ北條義時ヲ伐チ、克  
クスレテニ上皇ト共ニ各海島ニ徙サル、後醍醐  
天皇ノ時ニ到リ、北條氏滅ヒテ足利氏又興リ、天  
皇吉野ニ幸ス、後龜山天皇ニ至ルマテ凡ソ三世、  
五十六年ノ間楠新田諸族足利氏ト京都ヲ争ヒ  
彼入レハ此出テ、此入レハ彼出ツルコト數ナリ、  
後醍醐天皇ノ芳野ニ幸スルニ及ヒテ、足利氏乃  
皇胤ヲ選ミテコレヲ立テ、愈朝憲ヲ蔑視ス、義輝

ノ時ニ到リ、其臣三好松永等權ヲ專ニシ、遂ニ義  
輝ヲ弑ス、義昭ニ及ヒテ足利氏亡ヒ織田氏トナ  
リ、織田氏亡ビテ豊臣氏興ル、豊臣氏亡ビテ徳川  
氏興リ、武門ノ勢愈熾ニシテ王室ハアレドモ無  
カ如シ、有志ノ士慨然トシテコレヲ憤リ羣起シ  
テ幕府ヲ尤ム、孝明天皇ノ時ニ到リテ關西ノ諸  
藩攘夷論ヲ主張シ、竊ニ徳川氏ヲ倒サントス、毛  
利氏因リテ罪ヲ得ルヲ以テ國老罪ヲ訴ヘ兵ヲ  
引キテ帝闕ヲ侵ス、諸藩ノ兵コレヲ討ツ、慶應三  
年徳川慶喜政權ヲ王家ニ還シ、大坂ニ退ク、既ニ

シテ兵ヲ發シ京ニ入ラントス、諸藩ノ兵討チテ  
コレヲ退ク、嗚呼大權ノ武門ニ歸スル五百數十  
年、今上皇帝ニ到リ初メテ大政ヲ親ラシ給ヒ、再  
天日ヲ仰グコトヲ得ル、豈萬民ノ幸福ニアラズ  
ヤ、後皇居ヲ東京ニ定メテ、京都府ニハ知事參事  
ヲ置キ、全國八郡及丹波三郡ヲ管轄セシム、八郡  
ハ曰ク乙訓曰ク葛野曰ク愛宕曰ク紀伊曰ク宇  
治曰ク久世曰ク綴喜曰ク相樂是ナリ、

神社

賀茂別雷神社ハ、愛宕郡上加茂村ニアリ、祭神ハ

別雷神、風土記ニ別雷神ハ、健角身命ノ女、玉依姫ノ子ナリト、健角身命神ハ皇産靈ノ孫天神魂命ノ子ナリ或ハ傳フ瓊々杵尊ナリト、例祭ハ毎年四月十五日ナリ、加茂御祖神社ハ同郡下加茂村ニアリ、祭神二座玉依姫命加茂健角神命ナリ、雍州府志ニ上加茂ノ社ハ山城國ノ一ノ宮ナリ、白鳳年間大己貴命下加茂ニ現ハレ、其後瓊々杵尊上加茂ノ別雷山ニ現ハル、故ニ兩社ヲ上下ノ加茂社ト稱ス、桓武帝遷都以前ニ在リト云ヘリ、上下兩社共ニ其境内幽邃ニシテ、宮殿美麗ナリ、松尾神社ハ葛野郡山田

村ニアリ、祭神二座大山咋命、中津島姫命ナリ、大山咋命ハ大己貴命ノ子ナリ、中津島姫ハ素盞鳴尊ノ女ナリ、例祭ハ毎年四月二日ナリ、男山ハ幡ハ綴喜郡男山鳩嶺ニアリ、又石清水ハ幡宮ト稱ス、祭神三座曰ク品陀別命曰ク息長帶姫命曰ク比賣神例祭ハ毎年八月十五日ナリ、平野神社ハ葛野郡平野村ニアリ、祭神四座曰ク今木神曰ク久度神曰ク古開神曰ク比咩神此四神ハ源平高楮大江四姓ノ祖神ナリト云フ、例祭ハ毎年四月二日ナリ、稻荷神社ハ紀伊郡稻荷山ニアリ、祭神



三座曰ク倉稻魂神曰ク猿田彦神曰ク大宮女命  
或ハ伊弉册尊瓊々杵尊ト共ニ五座トス、例祭ハ  
毎年四月九日ナリ、以上ハ皆官幣大社ニシテ官  
幣中社モ亦多シ、梅宮神社ハ葛野郡梅津ニアリ、  
祭神ヲ酒解神大若子神小若子神酒解子神ノ四  
座トス、例祭ハ毎年四月三日ナリ、貴船神社ハ愛  
宕郡鞍馬山ニアリ、祭神ヲ高靈神トス、例祭ハ每  
年六月一日ナリ、大原野神社ハ乙訓郡大原村ニ  
アリ、祭神ヲ健御雷神齋主命天兒屋根命比賣神  
ノ四座トス、桓武天皇遷都ノ時大和ヨリ此神ヲ

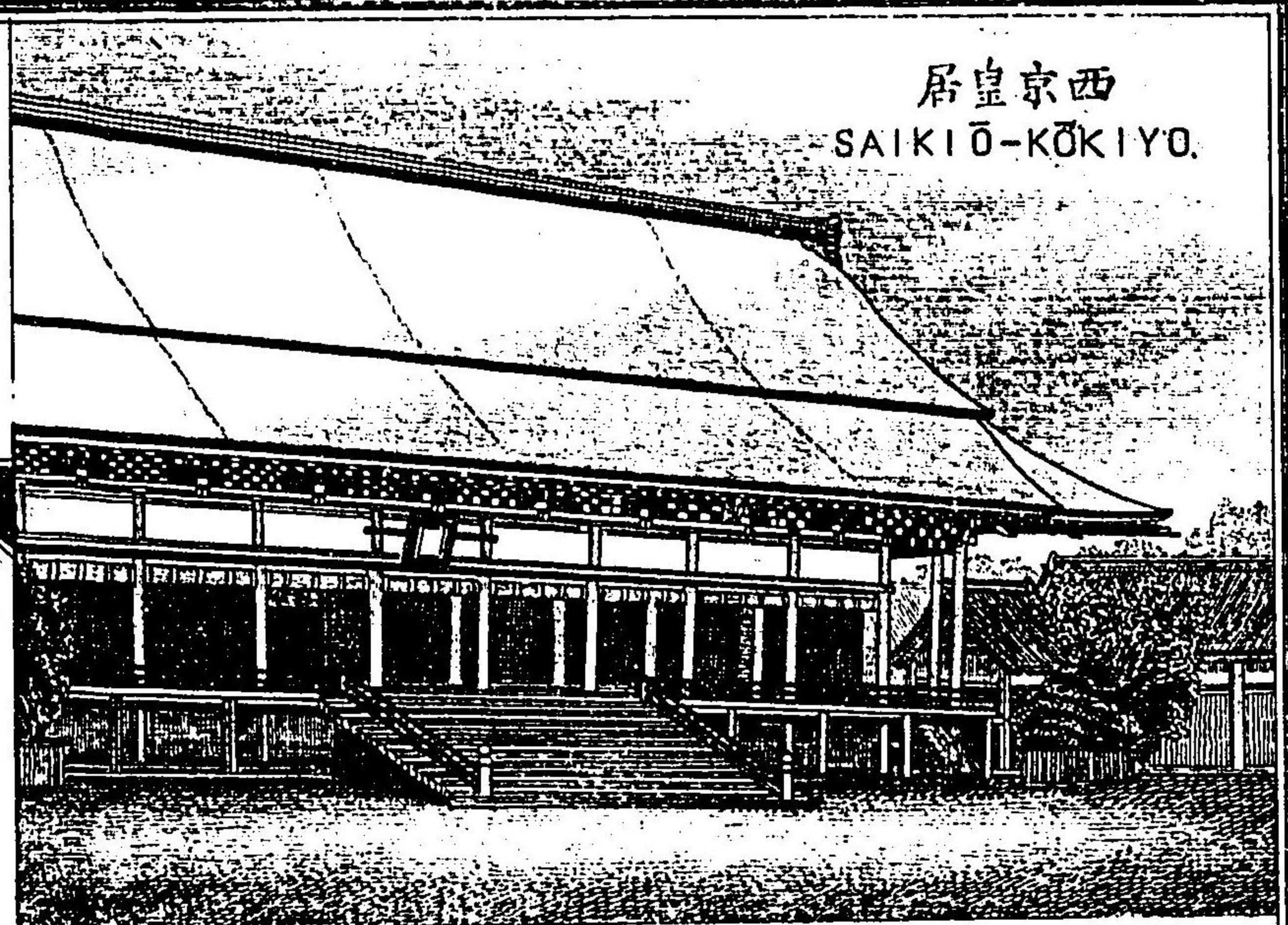
遷セシト云フ、例祭ハ毎年二月八日ナリ、吉田神  
社ハ愛宕郡吉田村ニアリ、祭神ヲ健御賀豆智命、  
伊波比主命、天之子八根命、比賣神ノ四座トス、例  
祭ハ毎年四月十八日ナリ、北野神社ハ葛野郡北  
野ニアリ、祭神ヲ贈太政大臣正一位菅原朝臣道  
實公トス、其傳記ハ普ク人ノ知ル所ナレハ省キ  
テ録セズ、例祭ハ毎年八月四日ナリ、八坂神社  
ハ愛宕郡八坂郷ニアリ、祭神ヲ素盞鳴尊稻田比  
賣命八柱御子神ノ三座トス、例祭ハ毎年六月十  
五日ナリ、白峰宮ハ府廳ノ傍飛鳥井町ニアリ、祭

神ヲ崇徳上皇トス、明治元年讚岐ヨリ遷ス所ニ  
シテ例祭ハ毎年九月廿一日ナリ、又愛宕郡阿彌  
陀峰ニ豊臣神社アリ、祭神ハ豊臣朝臣秀吉ニシ  
テ例祭ハ毎年九月十八日ナリ、

土地

京都府廳ハ、即葛野郡二條城ナリ、城ノ北ニ皇居  
アリ、宮殿美ニシテ且潔ク、公卿ノ邸宅コレヲ周  
ル、今上皇帝遷都ノ後ハ、寂トシテ履聲無シ、然レ  
トモ府下市街ハ殷富舊ニ仍リ、道路ノ修整恰拭  
フガ如クニシテ、其最繁華ナルヲ三條、四條、五條、

西京皇居  
SAIKIŌ-KŌKIYO.



寺町ノ四路トス、商家雜  
沓人馬絡繹學校アリ、病  
院アリ、電信局アリ、郵便  
局アリ、妓樓ハ祇園島原  
北野ヲ盛ナリトス、然レ  
ドモ一娼妓解放ノ令出  
デ、遽ニ産業ヲ變スル  
モノ多シ、劇場ハ四條ヲ  
最トス、此妓從來正史ヲ  
紊リ風俗ヲ亂スノ一端

ナリシカ先年官其淫事ニ渉ル者ヲ禁セシヨリ、  
專勸善懲惡ヲ旨トシ頗人道ニ益アリ、凡一府ノ  
風俗ハ節儉ヲ主トシ美麗ヲ喜ヒ衣服ヲ製華麗  
ヲ極メ家室ノ制閑雅ヲ專トス、然レトモ男ハ逸  
シ女ハ勞スルノ風アリ、婦人ハ肌膚白ク容姿頗  
艶ナリ、コレ鴨川ノ水其清ノ致ス所ナリ、ト云ヘ  
リ、此都府ヲ評スルモ、或ハ曰ク運送不便ニレ  
テ貿易ノ地ニアラズ、故ニ巨商ハ皆東京大坂ニ  
家ス然レトモ山水ノ美ハ三府ノ冠タリト、或ハ  
曰ク京都ハ老ヲ慰ムヘキノ地ナリト、頃越前大

坂ノ間ニ鐵路ヲ設ケ瀛車ヲ通スルノ議アリト  
聞ク其功果レテ成ラバ此地モ亦運輸自在ニシ  
テ其繁華モ東京大坂ニ比スルニ至ラン ○春風  
三月淡靄四山ヲ罩ノ花香衣ヲ撲ツノ時ニ當リ  
テハ府下ノ人貴賤ト無ク、男女ト無ク、隊ヲ結ヒ  
伍ヲ列子酒ヲ携ヘ肴ヲ提ケ漫遊微醉花ヲ看テ  
回ルト言ハザル者ナシ、其花ヲ觀ルヘキノ地ハ  
指屈スルニ暇アラスト雖嵐山ヲ第一トス、嵐山  
ハ葛野郡ニアリ、テ滿山雜樹少ク唯松樹花間ニ  
點綴スルノミニシテ大井川其下ヲ流ル水ヲ隔

渡月橋之圖  
TOGEKKIYO.



テ、其景色ヲ望ムヲ最  
佳ナリトス、岸上ノ酒家  
ニ雪月花杜鵑ノ四亭ア  
リ、又渡月橋上ヨリ回顧  
スルモ亦佳ナリ、法輪寺  
ヨリ眺覽スルモ亦佳ナ  
リ、此山ノ櫻樹ハ龜山天  
皇ノ時芳野山ヨリ移セ  
レト云フ、雍州府志ニハ  
古櫻千株ヲ嵐山ニ植エ

テ吉野山ヲ摸シ且藏王權現ノ祠ヲ建ツト云ヘ  
リ嵐山ニ亞クテ御室トシ月輪寺トス、御室ノ櫻  
ハ高纒ニ丈餘花ヲ着クルコト極メテ密ナリ、月  
輪寺ニハ時雨櫻アリ、晴日ト雖雨ヲ帶フルカ如  
シ故ニ名ツク、其他東山平野等亦佳ナリ、又夏日  
避暑ノ地ハ比叡山ノ如キ、若王子ノ如キ、南禪寺  
ノ如キ、紉ノ林ノ如キ、皆熱ヲ洗フベシ、但四條ノ  
納涼ハ榻ヲ鴨川ノ清流ニ架シ燈光萬點頗雜沓  
ナリ、又秋日散步ノ地ハ高尾梅尾ニハ楓樹ヲ賞  
スヘシ、廣澤ノ池ハ明月ヲ賞スベシ、嚴冬雪裏ノ



金閣寺之圖  
KINKAKUJI.

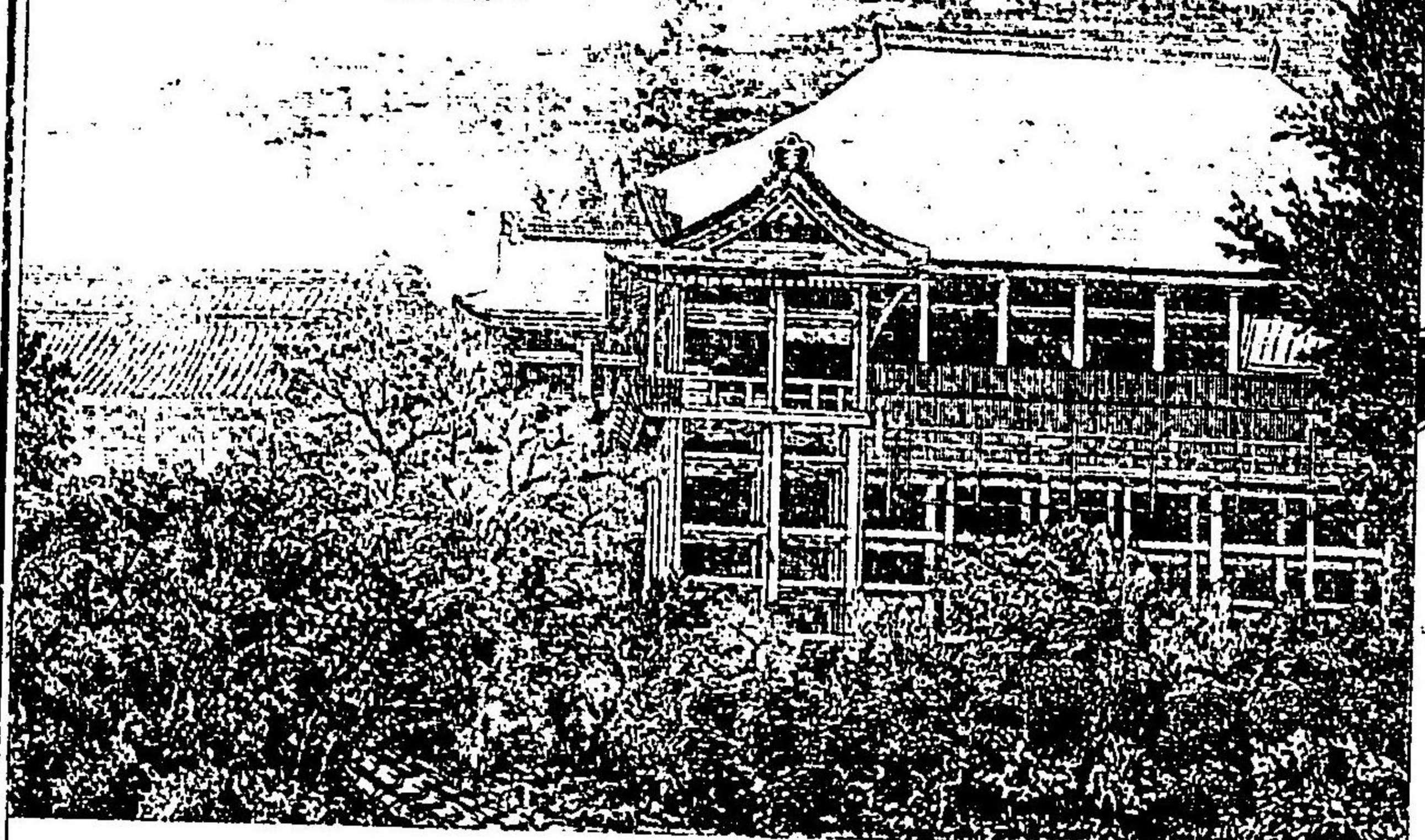
景ハ九山ヲ第一トス、其  
 他金閣寺ノ如キ、銀閣寺  
 ノ如キ、祇園ノ如キ、清水  
 ノ如キ、或ハ花、或ハ月、四  
 時ノ景色目ヲ慰メ、心ヲ  
 怡ハシム實ニ其山水天  
 下ニ甲タリ○紀伊郡ハ  
 府廳ノ南ニレテ宇治、乙  
 訓二郡ノ間ニアリ、淀城  
 ハ淀川ニ臨ム古昔豊太

閣ノ室、此ニ在リテ淀殿ト號ス、當時城内ノ庭園  
 極メテ善美ヲ盡セリト云フ、徳川氏ノ時稻葉氏  
 コレニ主タリ、城下市街ハ甚繁華ナラスト雖亦  
 清潔ナリ、伏見ハ一ニ俯見ニ作り、又伏水ニ作ル、  
 北朝崇光帝ノ孫世々此地ニ居リ、伏見ノ宮ト云  
 フ、豊太閣初メテ城ヲ築キシヨリ市街繁盛商賈  
 輻輳ノ地トナル、慶長五年石田三成ノ亂ニ、城ハ  
 皆毀タレテ今其址ニ桃花數千株アリ、因リテ桃  
 山ト稱ス、花候ニ至レハ四方ノ遊人踵ヲ接レテ  
 到ル、徳川氏ノ時此地ニ奉行ヲ置キテ、統轄セシ

△此郡ノ市場ハ深草、竹田、下鳥羽、上鳥羽、伏見街道等ニシテ、深草ヨリ土器及團扇ヲ産シ、鳥羽ヨリ甜瓜ヲ産ス、味最美ナリ、又伏見街道ニ寺アリ、東福寺ト云フ、境内ニ通天橋アリテ、橋下ニ西湖ノ楓アリ、其他多ク楓樹ヲ植ウ、故ニ秋日来賞ノ客夥シ○宇治郡ハ、國ノ東南ニ在リテ、此郡ヨリ茶ヲ産ス、極メテ佳品ニシテ利ヲ得ル最多シ古昔、柘尾ノ明恵上人初メテ茶ヲ此ニ植エシト云フ、市場ハ下醍醐ヲ盛ナリトス、其傍ニ醍醐山アリ、松杉、紫鬱トシテ白雲常ニ封ス、其西ニ小栗、柘

村アリテ明智光秀ノ死セシ所ナリ、天正十一年光秀山崎ニ敗レテ近江ノ坂本ニ赴カントス、此地ノ土民竹槍ヲ以テコレヲ刺セリト云フ○久世郡ハ宇治ノ西南ニ在リテ宇治町ハ四方高賈ノ往来スル所ナリ、其地ニ平等院アリ、宇治關白頼道ノ建ツル所ナリ、初仁徳天皇ノ皇弟菟道稚郎子此ニ居ル治承四年源頼政高倉宮ヲ奉レテ平氏ノ兵ト此ニ戦ヒ軍敗レテ自殺ス、今其地ヲ扇ノ芝ト云フ、尋テ源義經平氏ヲ此ニ伐ツ、佐々木高綱梶原景季宇治川ノ先登ク、建武年間ニ

清水寺之圖  
KIYOMID ZDERA



及ヒ楠新田ノ兩將尊氏ト大ニ此ニ戰フ、尊氏ハ清和天皇十五世ノ孫足利貞氏ノ二男ニシテ初高氏ト云フ後、醍醐帝ノ御諱尊ノ字ヲ賜ハリ尊氏ト改ム其祖嘗テ下野ノ足利郡ニアリ、因リテ以テ氏トス、元弘ノ亂ニ戈ヲ倒ニシテ六波羅

ヲ陷レ、北條時行ノ兵ヲ興ス、又詔ヲ奉シテコレヲ滅シ、威名大ニ振ヒ、自征夷大將軍ト稱シ、賴朝ノ舊制ニ倣フ、其際五畿東海西海至ル處ニ困頓レ一敗一勝遂ニ屈セス、大權ヲ掌握スルコト十三世、其皇綱ヲ紊ルノ罪實ニ憎ムベシ、徳川氏ノ末年某等其木像ヲ斬リテ以テ梟シ、人皆コレヲ快トス、平等院ノ西槇島ニ城址アリ、足利義昭ノ築ク所ニシテ、義昭信長ヲ此ニ拒キ幾ナラズシテ敗ラル、此地月ヲ賞スルニ宜シク、又螢ヲ觀ルニ宜シ○綴喜郡ハ、久世郡ノ南ニアリテ、相樂郡

ニ隣ル、八幡橋本ハ大坂ノ官道ニ當リテ、行旅ノ  
來往多シ、又玉水ハ大和ノ官道ニ當リテ、其東ニ  
玉川アリ一ニ井堤川ト云フ、所謂六玉川ノ一ナ  
リ、古昔橘諸兄棠棣花ヲ此兩岸ニ植ウ、花ノ時ニ  
至レハ恰黃金ヲ散スルガ如クナリシト云フ、古  
人コレヲ歌ニ咏スル者多シ○相樂郡ハ、國ノ東  
南隅ニ在リテ、市場ハ祝園、木津、南笠置、北笠置等  
ナリ、南笠置ノ山上ニ笠置寺アリ、元弘年間後醍  
醐天皇此ニ幸ス、此山巖石峭立シテ流水其下ヲ  
繞リ、要害頗堅固ナリシヲ土人東軍ヲ導ケルニ

因リテ陶山、小宮山等伊賀路ヨリ進ミ夜ニ乘シ  
テ皇居ヲ侵シタリ、今其地ヲ畜生村ト云フ、此郡  
大寺アリ、大智寺ト云ヒ、金胎寺ト云フ、皆勝景ノ  
地ヲ占ム○乙訓郡ハ、國ノ西南ニ在リ、桓武天皇  
初メテ都ヲ此郡ノ長岡ニ遷ス、續日本紀ニ長岡  
舊都ノ方境ハ、大原野春日社ノ東南ヨリ、東ハ向  
日ノ社ヲ限リ、西ハ丘山ヲ際リ南ハ山崎ノ邊ニ  
到ルト云フ、此郡ノ驛路ヲ山崎トシ、向日町トス、  
皆貿易繁盛ナリ○葛野郡ハ、乙訓郡ノ北ニアリ、  
此郡幽邃ノ地多ク殊ニ嵯峨野ノ如キ、古來此ニ



隱遁スルモノ多キハ、古人ノ詩歌ニ詳ナリ、今ハ人家稠密ニシテ商賈貿易ノ地トナル、然レドモ猶一閑雅ノ佳境タリ、嵯峨ノ十景ハ曰ク叡岳ノ晴雪曰ク難波ノ飛瀑曰ク遍照ノ孤松曰ク愛宕ノ雲樹曰ク五臺ノ晨鐘曰ク幡山ノ靈社曰ク嵐嶺ノ白櫻曰ク仙翁ノ麥浪曰ク龜渚ノ落月曰ク雄藏ノ紅楓ナリ、府廳ノ西北西陣ハ絹帛ヲ産スル夥シ、コレヲ西陣織ト云フ、○愛宕郡ハ國ノ北ニアリテ山峰多シ、叡山ノ麓ハ瀨大原ノ二村ハ、其風俗他ニ異ナリ、男女頭髮ノ様皆同レク衣服

ノ制モ亦同レ蓋レ古ノ風ナリ、婦人ハ薪ヲ賣ルヲ業トス、八瀨ニ竈風呂アリ、善ク痼疾ヲ療スベシ、○國內帝陵六十有九、八十五代後堀河天皇ヨリ以來皆泉涌寺ニ葬ル、皇祖仁孝天皇ノ陵ヲ弘化陵ト號ス、天皇諱ハ惠仁在位二十九年弘化三年丙午二月六日崩ス、壽四十七、皇考孝明天皇ノ陵ヲ後月輪東山陵ト號ス、天皇諱ハ統仁在位二十一年慶應三年丁卯十二月二十五日崩ス、壽三十七

山川

東方ニ秀出セル山峰ヲ比叡山トス、山脈近江ニ  
跨ガリ近江ノ國南ニ走リテ白川山、如意嶽、音羽  
山、岩間山ニ到リ、鷲峰笠置ノ諸山ニ連ナル、比叡  
山ニ躋ル路ヲ雲母坂ト云フ、坂路峻岨ニシテ行  
人汗ヲ揮ス、其下山端村ノ山水明媚ノ境ナリ、又  
白川山ニ白川ノ瀧アリ、高數丈此邊ヨリ石ヲ産  
ス、土人コレヲ以テ諸器ヲ製ス、白川ノ西ニ一條  
寺村アリ、昔時石川丈山居テ此ニトシ、詩仙堂ヲ  
建ツ、其堂今猶存セリ、北方ニ峭立スル山峯ヲ大  
悲山トス、鞍馬山、花瀬嶺、紫雲嶺、岩倉山、貴船山等

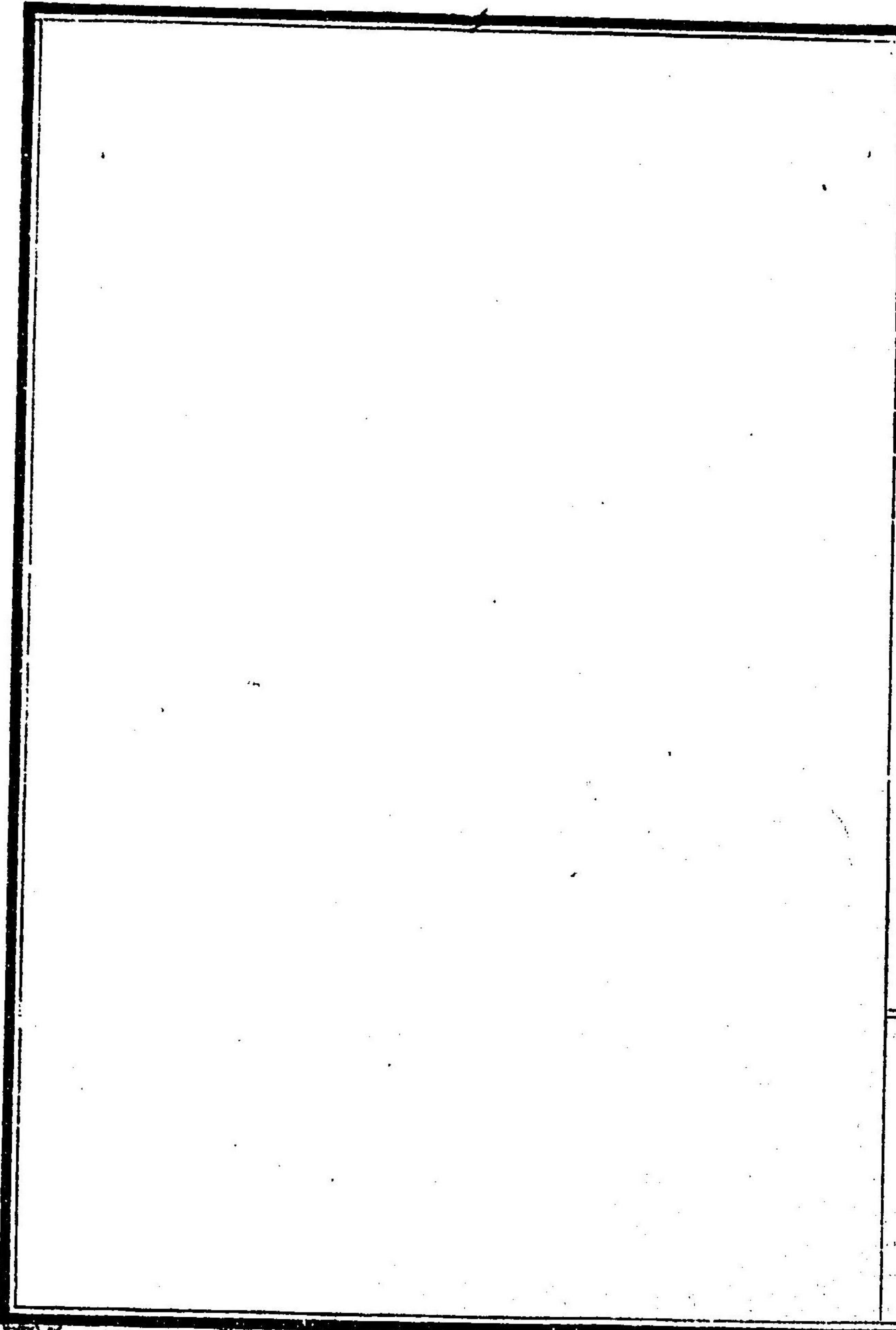
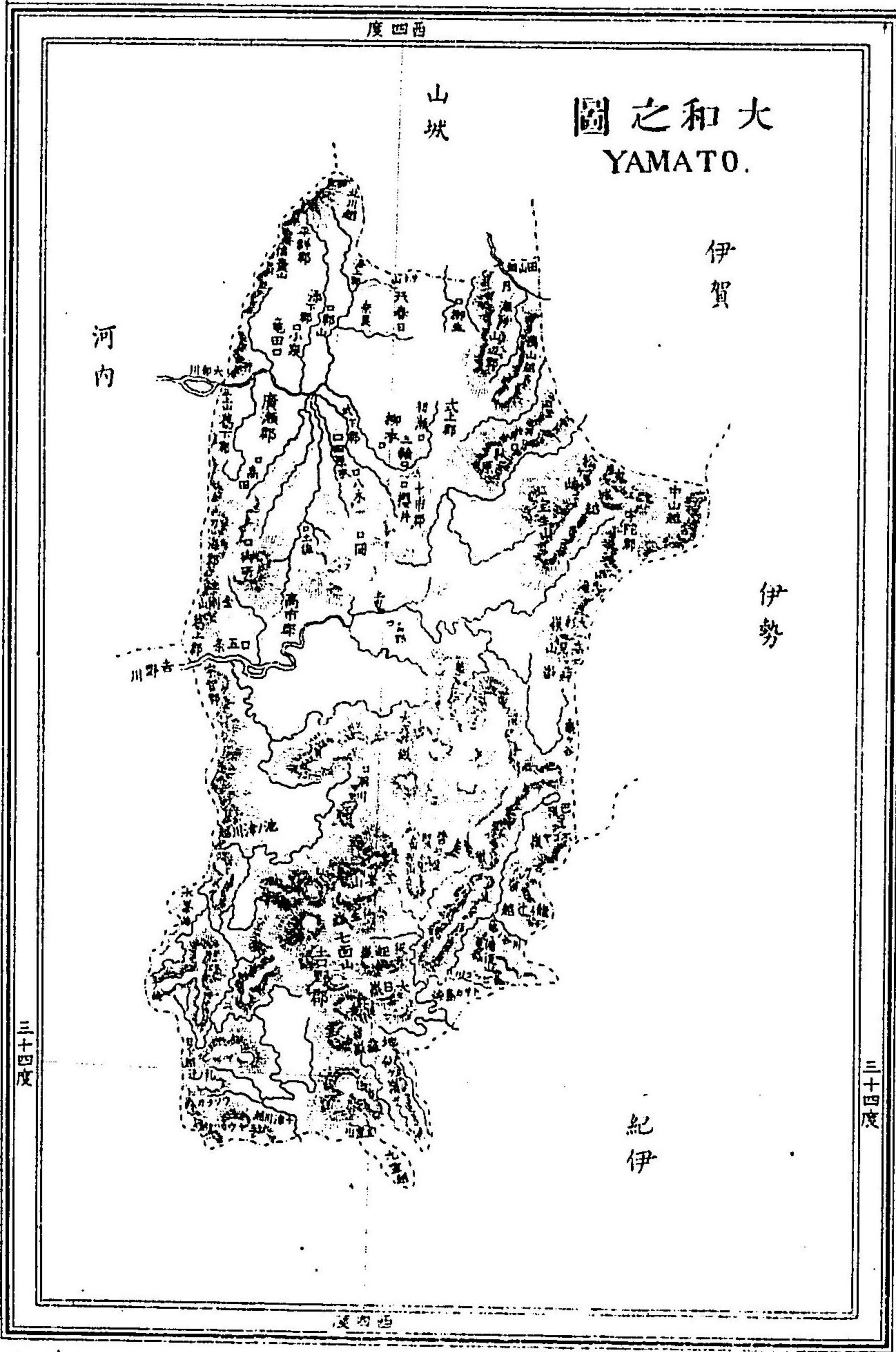
其腰ヲ繞ル、鞍馬山上ニハ、鞍馬寺アリ、延暦年間  
大中大夫藤原伊勢人ノ草創ナリ、此山ヨリ石材  
薪炭等ヲ産ス、花瀬嶺ハ山水清幽ノ境ニシテ千  
巖秀ヲ競ヒ、萬壑流ヲ争フ、凡テ此邊ノ山中ヨリ  
材木ヲ出タスコト夥シ、又西方ニ聳ユル嶺ヲ愛  
宕山トス、山脈南ニ馳セ、高雄山、大江山、本山、越天  
王山ニ到リテ止マル、愛宕山上ニハ白雲寺アリ、  
眺望極メテ佳ナリ、然レトモ坂路羊腸頗攀躋ニ  
困ム、天王山ニ城址アリ、山名是豊ノ築ク所ナリ  
ト云フ、川流ノ大ナル者ヲ淀川トシ、宇治川トシ、

桂川トシ、鴨川トシ、木津川トス、木津川ハ其源ヲ大和及伊賀ヨリ發シ南北笠置ノ間ヲ流レテ西ニ向ヒ蛇行シテ淀ニ至リ、淀川ニ入ル、鴨川ハ其源ニアリ、一ハ大原郷ヨリ發シ八瀬高野山端ヲ過キ、一ハ岩屋山ノ傍ヨリ發シ東南ニ赴キテ加茂ニ至リ、二流相會ス、コレヲ鴨川ト云フ、府ノ東ヲ繞リテ桂川ト共ニ淀川ニ入ル、桂川ハ丹波ヨリ来リ、愛宕ノ麓ヲ過キテ高雄川ヲ併セ、嵐山ニ沿ヒテ、川ト云フ、淀川ニ入ル、宇治川ハ其源近江ノ琵琶湖ヨリ出テ、宇治郡ニ来リ西流シテ淀

川ニ入ル、淀川ハ木津宇治加茂桂ノ四大川ヲ併セテ、河内攝津ノ國境ヲ界シ海ニ入ル、其流皆清潔ニシテ、纓ヲ洗フベシ

産物

産物ハ、西陣ノ織物、天鵝絨、緞子、錦、繻、綾子、縮、緬、京八丈、京郡内ノ類、又鴨川、涑、白粉、漆器、金銀箔等ニシテ、扇、團扇、珠數、人形、茶器、陶器、硯石、燧石、砥石ヲ出タス、又茶、及松茸、水菜、甜瓜、生薑、大蕪菁、壬生菜、牛蒡、桃梅ノ類ナリ、魚鱗ハ、川魚ノミニシテ、海魚ノ價甚貴シ、大坂及若狹ヨリ輸送ス



大和誌

位置

大和國ハ東南紀伊伊勢伊賀ニ接シ、西北ハ山城、  
 河内及紀伊ニ界ス、全國東西狹クシテ南北長シ、  
 初神武天皇日向ヨリ興リ東征シテ都ヲ此國ノ  
 橿原ニ定ム、因リテ日本ノ總稱トナル、天智天皇ノ時大倭  
ノ總稱ヲ改メテ大日本國トス初ハ倭ニ作ル後ニ大倭ト云フ、  
 聖武天皇ノ天平九年改メテ大養德國トシ、同十  
 九年舊ニ仍リテ又大倭トス、孝謙天皇ノ天平勝  
 寶年間改メテ大和トス、或ハ云フ、大倭ハ山戸ヤマト十

リ、草昧ノ時國人戸ヲ山ニ穿チテコレニ棲ム、故ニ名クト或ハ云フ、山跡ナリ、開闢ノ初土地濕トテ乾カズ、山路人ノ跡アリ、ヨリテ名トスト、然レトモ山處ノ義ヲ以テ正トスベシ、貝原篤信ハ神武天皇日向ヨリ東征ノ時、先難波ヨリ牧方ニ上リ、夫ヨリ伊駒山ヲ越エテ大和ニ入ル、其ノ伊駒山ノ外ニアルヲ以テ山外ト云ヒ、淀川ノ内ニアル國ナルヲ以テ河内ト名ク、山外ハ河内ニ對シテノ名ナルベシト云ヘリ、是モ亦一説ナリ、此國ハ我邦第一ノ古地ニシテ、神武天皇世々ノ皇帝

皇居ヲ國內所々ニ遷ス、神功皇后ハ稚櫻ニ都シ、應神天皇ハ豐明ニ都シ、履仲天皇ハ十市ニ都シ、元恭天皇ハ明日香ニ都シ、安康天皇ハ朝倉ニ都シ、宣化天皇ハ廬野ニ都シ、欽明天皇ト齊明天皇ハ飛鳥ニ都シ、天武天皇ハ岡本ニ都シ、持統天皇ヨリ以後ハ奈良ニ都ス、桓武天皇ニ至リ初メテ山城ノ國ニ遷リ、後醍醐天皇ノ時ニ到リ、芳野ニ幸シテ行宮ヲ建ツ、是ヲ南朝トス、天皇崩レテ後村上天皇立チ、天皇崩シテ長慶天皇立ツ、天皇位ヲ後龜山天皇ニ讓ル、天皇北朝ト和シテ京ニ入

ル、此間實ニ五十八年ナリ、織田氏ノ時筒井順慶  
此地ヲ領セシガ、松永久秀攻メテコレヲ取ル、後  
久秀叛ク信長コレヲ討チテ順慶ヲ封ス、豊臣氏  
ニ到リ、其弟秀長ヲ封ス、後徳川氏ニ歸ス、是ヨリ  
植村、柳澤、柳生、片桐等ノ數氏ニ割キ與フ、徳川氏  
ノ末年中山忠光尊攘ノ説ヲ唱ヘ、天誅黨ト稱シ  
テ五條ノ代官鈴木某ヲ襲殺シ、植村氏ヲ高取城  
ニ攻ム、近國ノ兵来リテコレヲ撃チ、其亂遂ニ平  
ク、王政維新ノ後奈良縣ヲ置キ、全國十五郡ヲ管  
セシム、曰ク添上曰ク添下曰ク平群曰ク廣瀨曰

ク葛上曰ク葛下曰ク忍海曰ク宇智曰ク吉野曰  
ク宇陀曰ク式上曰ク式下曰ク高市曰ク十市曰  
ク山邊是ナリ

神社

國內神社多シ、一ニ曰ク春日神社、二ニ曰ク大神  
神社、三ニ曰ク大和神社、四ニ曰ク廣瀨神社、五ニ  
曰ク龍田神社、六ニ曰ク石上神社、七ニ曰ク丹生  
川上神社、皆官幣大社ナリ、春日神社ハ添上郡奈  
良ニアリテ、祭神ハ健御賀豆智命、伊波比主神、天  
兒屋根命、比賣神ノ四座トス、例祭ハ毎年二月一

日ナリ、大神神社ハ式上郡三輪村ニアリ祭神ハ倭大物主櫛瓊玉命トス、例祭ハ毎年四月九日ナリ、大和神社ハ山邊郡ニアリテ祭神ヲ倭大國魂神八千弋神御手神ノ三座トス、例祭ハ四月一日ナリ、龍田神社ハ平群郡龍田村ニアリ、祭神ヲ天御柱神國御柱神ノ二座トス、例祭ハ毎年四月四日ナリ、廣瀨神社ハ廣瀨郡河合村ニアリ、祭神ヲ若宇迦賣命トス、例祭ハ廣瀨ト同日ナリ、石上神社ハ山邊郡布留村ニアリ、祭神ヲ布都御魂劍十種瑞玉トス、例祭ハ毎年九月十五日ナリ、丹生川

上神社ハ吉野郡丹生村ニアリ、祭神ヲ意賀美神トス、例祭ハ毎年六月一日ナリ

土地

縣廳ハ添上郡奈良町ニアリ、奈良ハ一ニ南都ト稱ス、古ノ帝都ナルヲ以テナリ、當時肩摩輟擊ノ地ナリシカ遷都ノ後ハ寂寞ノ境トナル然レトモ市街一百三十有餘四通八達高賈輻輳シ縣廳建設ノ後ハ更ニ繁華ノ地トナレリ、傳ヘテ云フ、皇居ノ地ハ今ノ奈良町ニアラズ、興福寺ノ西築地ノ内ト稱スル地コレナリト、縣廳ノ東ニ古寺



アリ、興福寺ト云ヒ、東大寺ト云フ、興福寺ハ大職冠鎌足ノ建ツル所ニシテ後兵火ニ罹リ、又改メ造ル、古歌ニ咏セシ八重櫻ハ此境内ニアリシト云フ、寺前ニ猿澤池アリ古采女ノ自投セシ所ナリ東大寺ハ聖武天皇ノ建ツル所ニシテ治承年間僧徒源賴政ヲ援ク平重衡攻メテコレヲ燒ク、後源賴朝詔ヲ奉シテ再建セシガ、永祿年間亦松永氏ノ兵火ニ罹ル、今ノ伽藍ハ後ニ建テタル所ナリ、境内ニ勅符庫アリ、和漢ノ珍寶ヲ藏スル極メテ夥シ、其中ニ蘭奢待ノ香アリ、此寶庫常ニ勅

命封タルヲ以テ、命アルニアラザレハ、開クコト能ハズ、其南ヲ春日神社トス、遊鹿群ヲ成シ善ク人ニ馴ル、土人コレヲ神鹿ト唱ヘ尊敬シテ驅逐スル者ナシ、カノ前蔵ノ白象ヲ尊拜スルニ同シ、凡ヘテ此邊古人ノ和歌ニ散見セル名勝ノ地多シ、其南ニ柳生アリ、舊柳生氏ノ封ニシテ陣營アリ、又其東月ヶ瀬ハ清賞雅致ノ一境ニシテ溪間十餘里岸上皆梅樹ナリ、カノ寒葩冷蘂雪ヲ點シ珠ヲ綴ルノ時ニアタリテハ、遠近來觀ノ客桃香野ヲ經テ四十八瀧ヲ上リ、此ニ來ル此郡帝陵多

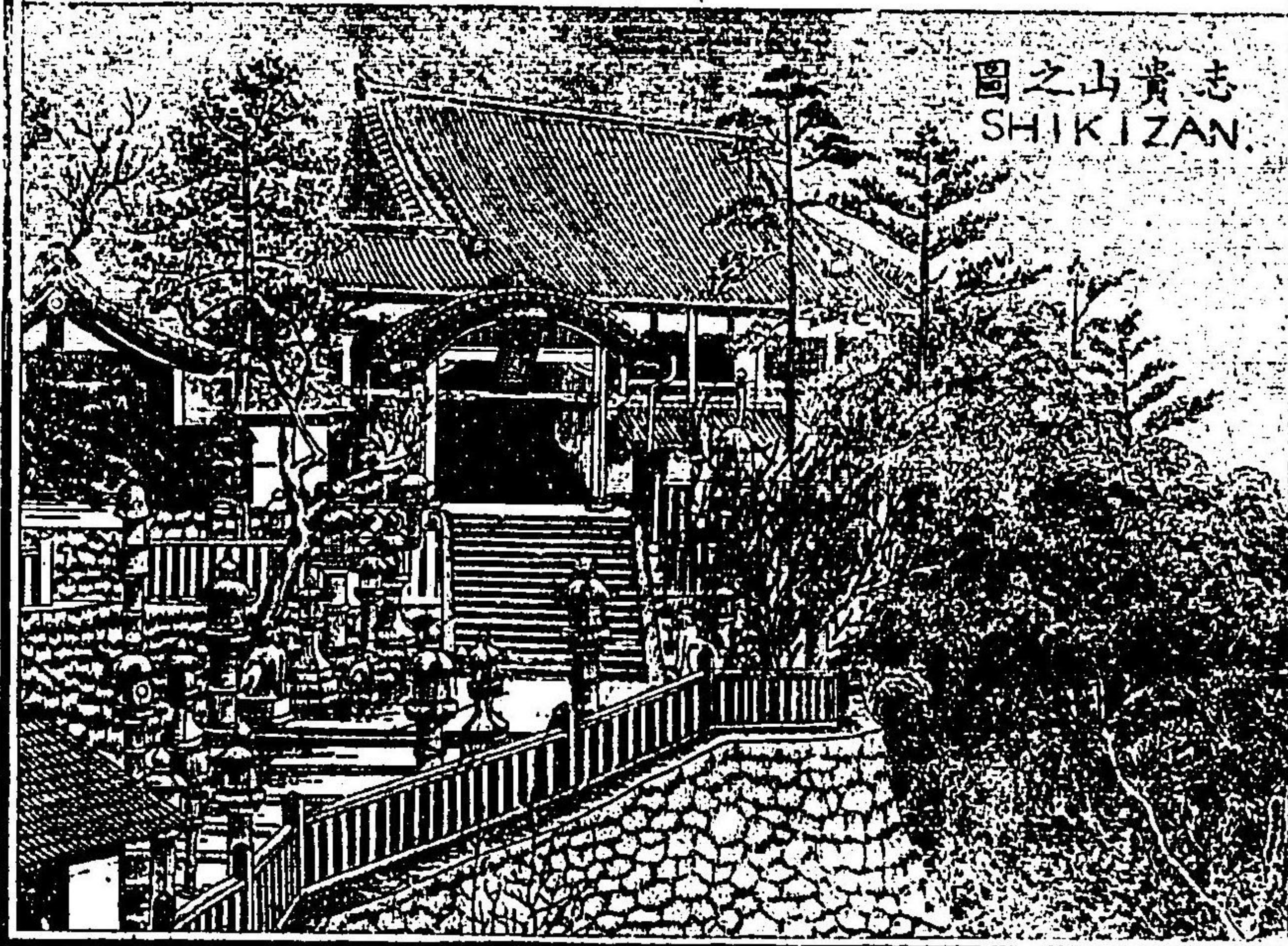
シ開化天皇ノ陵ハ漢國社ノ西念佛寺ノ境内ニ  
アリ、春日卒川坂下陵ト云フ、天皇ハ孝元天皇ノ  
子ナリ、在位六十年ニシテ崩ス、壽百十一元明天  
皇ノ陵ハ法華寺村ノ北ニアリ、佐保山東陵ト云  
フ、天皇日本根子天津御代豊國成姫ト號ス、天智  
天皇ノ女ナリ、在位七年元正天皇ノ陵ハ其傍ニ  
アリ、佐保山ノ西陵ト云フ、一ニ辨天山ト字ス、天  
皇日本根子尚瑞淨足姫ト號ス、草壁皇子ノ女ナ  
リ、在位七年聖武天皇ノ陵ハ奈良ノ法蓮寺眉間  
寺ノ後ニアリ、佐保山ノ南陵ト云フ、土人コレヲ

御陵森ト稱ス、天皇天璽國押開豊櫻彦ト號ス、文  
武天皇ノ子ナリ、在位二十年此陵舊松永久秀ノ  
城中ニアリ、城湮滅スト雖陵ハ依然トシテ存セ  
リ、光仁天皇ノ陵ハ東田原村ニアリ、田原陵ト云  
フ、塚本ト字ス、天皇白壁王ト稱ス、天智天皇ノ孫  
ナリ、在位十二年平城天皇ノ陵ハ常福寺村ニア  
リ、楊梅陵ト云フ、禰智山ト字ス、天皇日本根子天  
排國高彦ト號ス、桓武天皇ノ子ナリ、在位四年ニ  
シテ位ヲ皇太子ニ讓ル、郡山ノ城ハ添下郡ニア  
リ、古昔小田切春次ノ築ク所ニシテ文祿慶長ノ

際豊臣秀長及秀俊等城主タリシカ、徳川氏ニ到  
リ本多氏ヲ封シ、又松平氏ヲ封ス、即柳澤氏現今城已  
ニ廢スト雖、市街三十六商賈貿易ノ一繁昌地タ  
リ、郡ノ南筒井村ニ城址アリ、筒井順慶嘗テコレ  
カ主タリシガ松永久秀ノ有トナリ後又順慶ニ  
歸ス、順慶ハ茶及和歌ヲ能クス、此郡ノ名勝ノ地  
ハ秋篠里、外山里、伏見岡等ニシテ帝陵モ亦多シ、  
神功皇后ノ陵ハ郡山ノ傍陵村ニアリ、サキ狹城キタテ盾列  
池上陵ト云フ、土人御陵山ト稱ス、陵上ノ松柏鬱  
々トシテ晚翠ヲ含ム、皇后オキナガタラヒメ氣長足姫尊ト號ス、在

位六十九年ニシテ崩ス、壽一百歳垂仁天皇ノ陵  
ハ齋宮寺村ニアリ、管原伏見東陵ト云フ、蓬萊山  
ト字ス、成務天皇ノ陵ハ山陵村ニアリ、テサキ狹城キタテ盾  
列池後陵ト云フ、石塚ト字ス、天皇諱ハ雅足彦景  
行天皇ノ子ナリ、在位六十年ニシテ崩ス、大和巡覽  
記ニ本多氏郡山ヲ領セシ時里人石棺ヲ掘リ大  
刀短刀鏡等ヲ得タリ、即コレヲ本多氏ニ訴フ、本  
多氏其帝陵ナルヲ知リ、故ノ如ク土ヲ封セシム  
ト云フ、安康天皇ノ陵ハ寶來寺ノ西城山ノ内ニ  
アリ、管原伏見西陵ト云フ、保天堂ト字ス、天皇諱

ハ穴穂在位三年ニシテ  
 大草香ノ子眉輪王ニ弒  
 セラル○平群郡ハ國ノ  
 西北ニアリテ添下廣瀨  
 葛下三郡ニ隣ル國ノ西  
 信貴山ノ下ニ城址アリ、  
 古昔古川幸藏ナル者初  
 メテ築キシト云フ、天正  
 年間松永久秀此ニ據ル  
 初久秀ノ織田信長ニ降



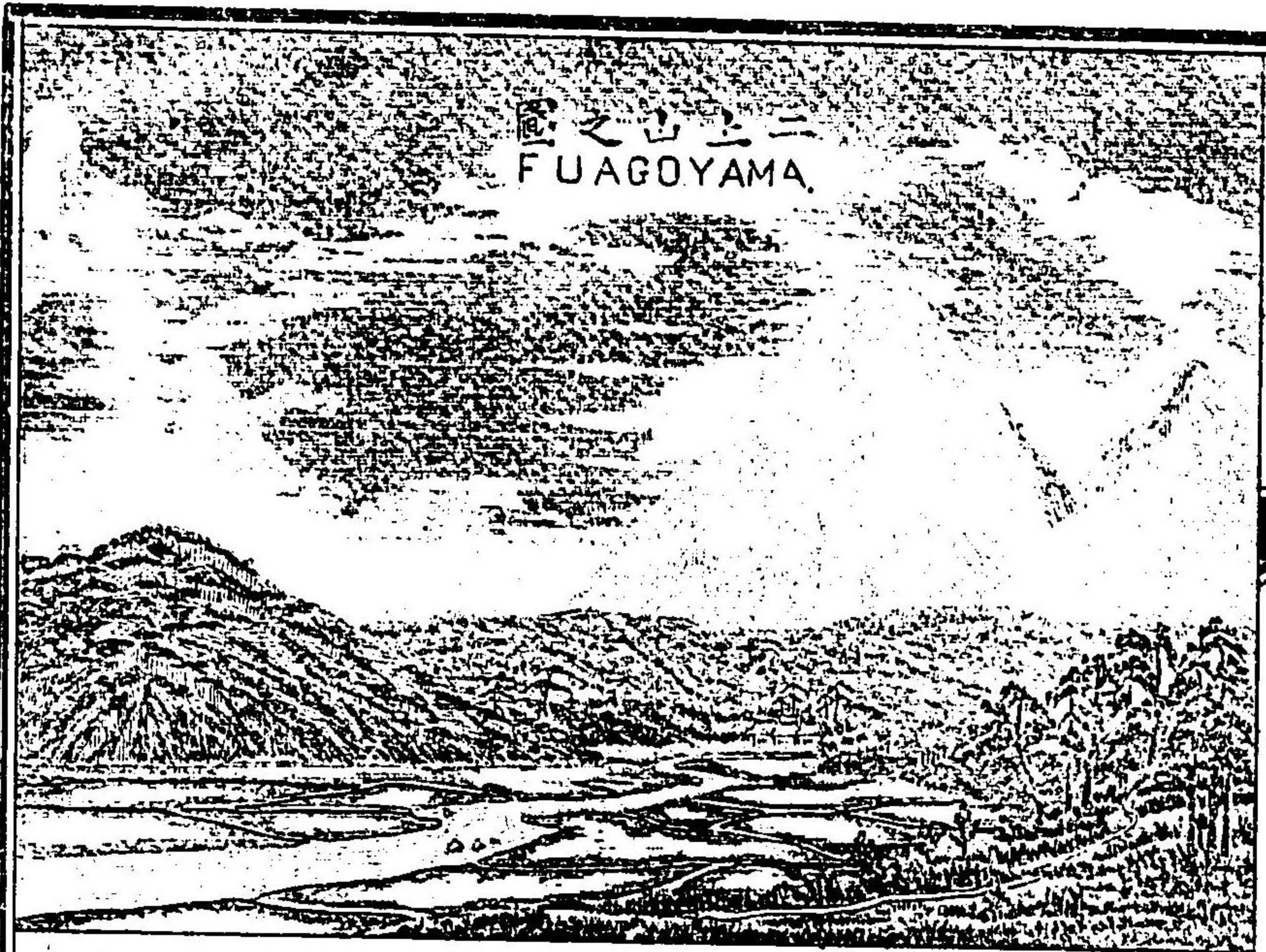
ル信長許サスレテ曰ク、彼智勇餘リアリト雖、奸  
 佞比無シ、飢レハ伏レ飽ケハ起ツ、彼既ニ足利氏  
 ヲ亂タス、今亦我カ家ヲ亂サンコトヲ欲スルカ  
 ト、時ニ佐久間信盛傍ニアリテ曰ク、彼暗主ニ事  
 フ故ニ此クノ如キノミ、主公コレヲ駕馭スル彼  
 モ亦何ヲカ為サン、宜ク撫納シテ廣キヲ天下ニ  
 示ス可シト、信長コレニ從フ後、徳川家康、信長ニ  
 謁ス、一老人ノ座ニ待スルヲ見ル、因リテ誰ソト  
 問フ、信長笑ヒテ曰ク、是松永彈正ナリ、此夫ハ人  
 ノ能シ難キ所ヲ為スコト三アリ、公方ヲ弒スル

一ナリ、三好氏ニ叛クニナリ、大佛殿ヲ燔ク三ナ  
リト、彈正トハ久秀ノ通稱ナリ、久秀俯伏流汗シ  
テ意安カラス、久秀愛スル所ノ茶鑑アリ、平蛛ト  
名ツク信長コレヲ得ンコトヲ欲ス、久秀獻セス  
是ニ於テ遂ニ叛キテ此城ニ據ル、信長ノ侍史友  
閑使シテ其意ヲ問フ、久秀答ヘス、因リテ信長ノ  
子信忠數萬騎ニ將トシテコレヲ攻ム、久秀潛ニ  
使ヲ遣ハシテ雜賀大坂ト期ヲ約シ、コレヲ夾撃  
セントス、其使誤リテ信盛ノ營ニ入ル、信盛捕ヘ  
テコレヲ獻ス、信忠喜ヒテ曰クコレ天授ナリ、乃

死士二百ヲシテ雜賀ノ援兵ト偽リ、夜城門ニ到  
ラシム、門開キテ入ル、信忠急ニ城ヲ圍ミ、遂ニコ  
レヲ拔ク、久秀天主閣ニ上リ、火ヲ縱チテ愛スル  
所ノ茶鑑ヲ抱キテ自燒死ス、其子久通以下皆誅  
ニ伏スト云フ、信貴山ノ東ニ龍田アリ、此郡第一  
ノ繁華市場ニシテ商賈輻輳ス、其東ニ法隆寺ア  
リ、聖德太子ノ建ツル所ナリ、○廣瀨郡ハ葛下ノ  
東式、下ノ西ニアリ、郡小ニシテ舊蹟少シ然レト  
モ百濟寺、長琳寺ノ如キハ皆大寺ナリ、○葛下郡  
ハ北ハ初瀨川ヲ限リ、南ハ忍海郡ニ隣リ、西ハ河

内ニ接ス、郡ノ南ニ新庄ノ陣屋アリ、徳川氏ノ時  
永井氏ノ封タリ、其東高田ハ農高貿易ノ一場ナ  
リ、郡ノ西ニ當麻寺アリ、推古天皇ノ時建ル所ナ  
リ、垂仁天皇七年當麻邑ニ力士蹶速ナルモノア  
リ、自稱シテ天下ニ比無シト云フ、帝コレヲ聞キ  
野見宿禰ヲシテコレト角セシム、蹶速遂ニ撲タ  
レテ死ス、是我國角觝ノ濫觴ナリ、王寺村ニ孝靈  
天皇ノ陵アリ、片丘坂陵ト云フ、峰垣戸ト字ス天  
皇大日本根子彦太瓊ト號ス、孝安天皇ノ太子ナ  
リ、母ヲ姉押姫ト云フ、都ヲ城下郡ノ黒田ニ遷ス、

在位七十六年ニシテ崩ス、壽一百二十八又池田  
村ニ顯宗天皇ノ陵アリ、片山岡磐築丘山陵ト云  
フ、二兒山ト字ス、帝諱ハ弘計、履中天皇ノ孫ニシ  
テ市邊押羽皇子ノ子ナリ、初市邊押羽皇子雄略  
天皇ニ殺サル弘計、兄億計ト逃レテ播磨ニアリ、  
清寧天皇子無キニヨリテ宮ニ入レ皇子トス、清  
寧天皇崩レテ兄弟相讓リ位ニ即カズ、因リテ飯  
豐青皇女ヲ立テ、天子トス、未幾ナラヌシテ歿ス、  
コレヲ飯豐天皇トス、億計ハ即仁賢天皇ナリ、天  
皇固ク位ヲ辭ス、是ニ於テ弘計位ニ即キ、明日香



八鈴宮ニアリ、天皇夙ニ  
 艱難ヲ嘗メ能ク民情ヲ  
 知ル故ニ即位ノ後天下  
 安静五穀豐饒在位三年  
 壽四十八ニシテ崩ス、又  
 築山村ニ武烈天皇ノ陵  
 アリ山岡磐築丘上陵ト  
 云フ、城山ト字ス、天皇諱  
 ハ小泊瀬稚鷦鷯仁賢天  
 皇ノ太子ナリ、母ヲ春日

大姫ト云フ、天皇淫虐ニシテ酒ヲ嗜ミ色ニ耽リ  
 殺戮厭クコトナク天下怨ミ畔ク、在位八年ニシ  
 テ崩ス○忍海郡ハ、葛上葛下兩郡ノ間ニアリテ  
 地形東西ニ長シ、忍海村ニ角刺宮ノ址アリ、飯豊  
 天皇此宮ニアリテ政ヲ行フト云フ、郡小ニシテ  
 記スヘキ者ナレ○山邊郡ハ國ノ東北ニアリテ  
 伊勢山城ニ接ス、布留村ニ布留ノ瀑アリ、一ニ桃  
 花籠ト云フ、白虹雲ヲ穿テ、寒聲月ヲ洗フ、真ニ佳  
 境ナリ、其傍ナル長瀬村ニ青葉ノ籠アリ、高數十  
 丈此郡多ク白甜瓜ヲ産ス、味極メテ美ナリ○式

上郡ハ十市、山邊兩郡ノ間ニアリテ柳本、芝村ノ陣屋アリ、慶長年間ヨリ織田氏世々コレニ居ル、此郡ノ市場ハ三輪初瀬ナリ、三輪ハ殊ニ繁華ノ地ニシテ素麵ヲ産ス、一説ニ三輪ノ神初メテ酒ヲ製ス、故ニ酒ヲ三輪ト云ヒ、又三輪ニ杉樹多シ故ニ酒家杉葉ヲ束テ招牌トナスト云ヘリ、初瀬ニ長谷寺アリ、元正天皇養老五年建ル所ニシテ寺中ニ觀音ヲ安ス、男女老幼四方コリ群賽ス、此郡ニモ亦帝陵多シ、崇神天皇ノ陵ハ柳本ノ當別所村ニアリ山邊道上陵ト云フ宇波奈利山ト

宇ス、天皇諱ハ御間城入彦五十瓊殖開化天皇ノ第六子ナリ、母ヲ伊香色謎命ト云フ、高市郡磯城ニ都シテ瑞籬宮ニアリ、在位六十八年壽百十九ニシテ崩ス、景行天皇ノ陵ハ澁谷村ニアリ、山邊道上陵ト云フ、向山ト宇ス、天皇諱ハ大足彦忍代別垂仁天皇ノ第三子ナリ、母ヲ日葉洲姫命ト云フ、日代宮ニアリ、後近江志賀郡ニ都ス、在位六十年ニシテ崩ス、舒明天皇ノ陵ハ押坂村ニアリ、押坂内陵ト云フ、壇々山ト宇ス、天皇諱ハ田村敏達天皇ノ孫押坂彦主皇子ノ子ナリ、推古天皇崩シ



テ蘇我蝦夷等迎へ立テ都ヲ飛鳥岡本宮ニ遷ス  
在位十三年ニシテ崩ス○式下郡ハ市廣瀨兩  
郡ノ間ナル小郡ナリ、黒田村ニ廬戸宮ノ址アリ、  
孝靈天皇此ニ都セシト云フ○宇陀郡ハ國ノ東  
部ニアリテ勝地多シ、殊ニ寶生山寶生寺ハ山間  
ニアリテ潺々タル溪流蒼々タル樹色風流ノ士  
酒ヲ携へ来リ遊フ者多シ、又松山町ハ此郡第一  
ノ市場ニシテ其東北ニ城址アリ、松山城ト云フ、  
元和年間織田氏コレカ主タリ、又其傍ニ秋山城  
アリ、天文年間秋山直國ノ築ク所ナリト云フ○

葛上郡ハ國ノ西部ニアリテ葛城山高ク西ニ聳  
エ郡ノ中央柏原村ニ橿原宮ノ舊址アリ、即神武  
天皇ノ都セル所ナリ、其傍ナル本間村ニ腋上ワキノカミ嘸  
間岳マノカアリ、一ニ國見山ト云フ、神武天皇此岳ニ躋  
リ一國ノ地勢ヲ見テ内木綿ウチノユノ真マコト途チ國クニト雖、蜻蛉  
ノ醫帖イヒトスルガ如シト詔ニテヨリ、秋津洲ノ名アリ  
ト云フ、又富田村ニ白鳥陵アリ、白鳥三陵ノ一ナ  
リ、古琴彈原ト唱ヘシハ即富田村ナリト云フ、此  
郡ニモ亦帝陵多シ、孝安天皇ノ陵ハ玉手村ニア  
リ玉手丘上陵ト云フ、宮山ト宇ス、天皇大日本足

彦國押入ト號ス、孝昭天皇ノ第二子ナリ、母ヲ世襲足姫ト云フ、葛上郡室ニ都ス、在位一百二年ニシテ崩ス、孝昭天皇ノ陵ハ三室村ニアリ、腋上博多山上陵ト云フ、脇田波多々山ト字ス、天皇觀松彦香殖稻ト號ス、懿德天皇ノ太子ナリ、母ヲ天豐津姫ト云フ、在位八十三年ニシテ崩ス、○宇智郡ハ葛上郡ノ南ニアリテ繁華市場ヲ五條ト云フ、遠近ノ貨物皆萃マリ四方ノ旅客皆到ル、徳川氏ノ時代官此地ニアリ、文久癸亥中山忠光等兵ヲ舉ケテ代官鈴木某ヲ殺シ近地騷然タリ、尋テ平

ク、此郡城址多シ、上村城アリ、二見城アリ、小島城アリ、小島城ハ大和志ニ、天文年中別所友興コレニ居ル、二見城ハ元龜年中松倉重政コレカ主タリ、上村城ハ牧野入道コレニ據レシト云フ、今其墟榛莽滿チテ狐兔遊ヘリ、○高市郡ハ國ノ中央ニアリテ市場ハ土佐、岡、今井、八木等ナリ、土佐ノ東高取山ノ半腹ニ城堡アリ、山路羊腸トシテ天險ノ要地ナリ、南朝ノ人コレヲ築キ北兵ヲ禦キシト云フ、徳川氏ノ時植村氏コレニ居ル、其封ニ萬五千石ナリ、此郡皇居ノ址多シ、小墾田宮、曲峽

宮境原宮、豐明宮、廐坂宮、板蓋宮、川原宮、遠飛鳥宮、  
八釣宮、藤原宮、淨御原宮、岡本宮、金橋宮等ナリ、又  
寺院多シ、岡寺、橘寺、豊浦寺、久米寺、壺坂寺等ハ其  
最大ナル者ナリ、又帝陵多シ、神武天皇ノ陵ハ四  
條村ニアリ、畝傍山東北陵ト云フ、御陵又ハ塚山  
ト字ス、天皇諱ハ狹野後神日本磐余彦尊ト號ス、  
日向ヨリ起リテ賊衆ヲ滅シ都ヲ畝傍ニ建ツ在  
位七十六年ニシテ崩ス、神武天皇即位元年辛酉  
ヨリ今明治七年甲戌ニ至ルマデ二千五百三十  
四年ナリ、綏靖天皇ノ陵ハ慈明寺村ノ東南ニア

リ、桃花鳥田丘上陵ト云フ、主膳塚ト字ス、主膳綏  
靖國音相似タルヲ以テ訛レルナリ、天皇神渟川  
耳ト號ス、神武天皇ノ第三子ナリ、在位三十六年  
ニシテ崩ス、安寧天皇ノ陵ハ吉田村ノ西北ニア  
リ、畝傍山西南御陰井上陵ト云フ、阿禰山ト字ス、  
亦安寧ノ音ニ似タルヲ以テナリ、天皇磯城津彦  
玉手看ト號ス、綏靖天皇ノ太子ナリ、在位三十八  
年ニシテ崩ス、懿德天皇ノ陵ハ池尻村ノ北ニア  
リ、畝傍山南織沙溪上陵ト云フ、麻名子山ノ東谷  
ト字ス、天皇大日本彦耜友ト號ス、安寧天皇ノ第

二子ナリ、在位三十四年ニシテ崩ス、孝元天皇ノ陵ハ石川村ノ東ニアリ、輕劍池島上陵ト云フ、天皇大日本根子彦國率ト號ス、孝靈天皇ノ子ナリ、在位五十年ニシテ崩ス、宣化天皇ノ陵ハ鳥屋村ニアリ、身狹桃花鳥坂上陵ト云フ、美佐武佐伊山ト字ス、天皇諱ハ高田安閑天皇ノ同母弟ナリ、在位四年ニシテ崩ス、欽明天皇ノ陵ハ平田村ニアリ、檜隈坂合陵ト云フ、猿山ト字ス、天皇天國排開廣庭ト號ス、繼體天皇ノ子ナリ、在位三十二年ニシテ崩ス、皇極天皇ノ陵ハ川原村ニアリ、越智ノ

岡上陵ト稱ス、天皇諱ハ寶達敏天皇ノ曾孫ニシテ、舒明天皇ノ皇后ナリ、レガ、舒明天皇崩レテ位ニ即キ皇極天皇ト稱ス、位ヲ輕皇子ニ讓ル、後重隆ス、コレヲ齋明天皇ト稱ス、在位七年、天武天皇ノ陵ハ五條野村ニアリ、檜隈大内陵ト云フ、丸山ト字ス、天皇諱ハ大海人、天智天皇ノ同母弟ナリ、在位十五年ニシテ崩ス、持統天皇ノ陵ハ、天武天皇ノ陵ト合葬ス、一ニ安古山陵ニ於テ火葬ストモ云ヘリ、天皇諱ハ兔野、天智天皇ノ第二子ナリ、在位十年、位ヲ珂瑠皇子ニ讓ル、文武天皇ノ陵ハ、

野口村ニアリ、檜前安古岡上陵ト云フ、王ノ基ト  
字ス、天皇ハ即珂瑠皇子ナリ、天武天皇ノ孫タリ、  
在位十一年ニシテ崩ス○十市郡ハ國ノ中央ニ  
シテ、高市郡ノ東北ニアリ、繁華市場ハ田原本、櫻  
井等ナリ、此郡ニモ亦皇居ノ址多シ、兩槻宮、玉穗  
宮、甕栗宮、稚櫻宮、百濟宮等ニシテ、倉橋村ニ崇峻  
天皇ノ陵アリ○吉野郡ハ國ノ南部ニアリテ、境  
地ノ大ナル、殆國ノ半ニ居ル、然レモ郡中山岳多  
クシテ、耕種ノ地少シ、吉野山一ニ三芳野ト云フ、  
山甚高カラスト雖、古ヨリ有名ノ地タリ、延元年

中後醍醐天皇京都ヲ逃レテ、此山ニ幸シ、皇居ヲ  
建ツ、コレヲ南朝ト號ス五十六年ニシテ、後龜山  
天皇北朝ト和ス、此時楠正儀、和田正武等卒シテ、  
南朝ニハ唯金剛山ノ一城アルノミ、畠山義深コ  
レヲ攻ム、城兵僅ニ數十人、糧盡キテ、十津川ニ匿  
ル、其後楠氏、菊地氏、北畠氏等ノ餘孽屢兵ヲ興シ、  
足利氏ヲ滅サントスト雖、事遂ニ成ラズ、王政維  
新ノ際、十津川黨ト稱シ、勤王ノ義ヲ唱ヘ、王家ニ  
功アルモノハ蓋南朝遺臣ノ後ナリ、明治二年十  
津川ノ郷士ニ、五千石ヲ下賜セララル、モ、亦故ア

ルカナ、此郡ノ市場ハ上市、下市、吉野等ナリ、吉野ニ後醍醐天皇ノ陵アリ、金峯山上ニ寺院アリ、金峯山寺ト云ヒ、寶城寺ト云ヒ、三寶院ト云ヒ、吉水院ト云フ、源義經ノ此處ニ潛ム、吉水院ニ在リ、山僧羣起シテコレヲ捕ヘントス、其臣佐藤忠信代リテ僧徒ヲ欺キ、義經十津川ニ遁ル、コトヲ得タリ、後醍醐天皇モ吉水院、寶城寺等ヲ皇居トセラレント云フ、○全國ノ風俗ハ、大抵山城ニ似タリ、然レドモ芳野郡ノ人ハ峭直ナリ、人國記ニ芳野山中ノ人ハ邪僻ニ陷ラス、奢美ヲ好マスト、此

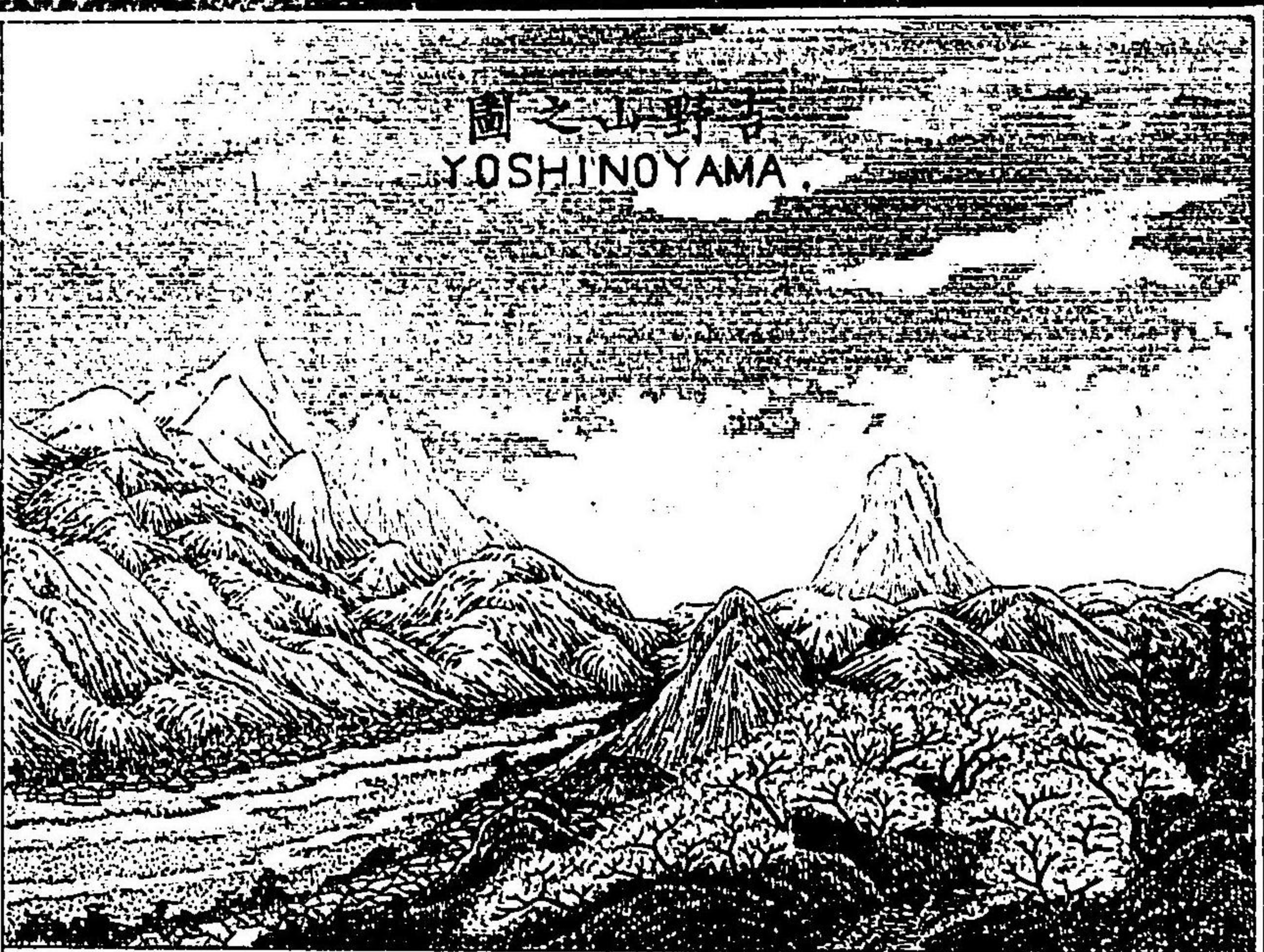
ヨリ北奈良ニ至リテハ、其人輕薄ニシテ篤實ノノ風少シ、

山川

全國山岳多シ、東ニハ大臺原、國見、高見ノ山脈、伊勢伊賀ニ連リ、西ニハ葛城、二上、信貴ノ山脈、河内紀伊ニ連ル、國ノ中央吉野郡ニハ、金峰山高ク聳エ、一ニ金御嶽ト云ヒ仙ヶ嶽、地藏嶽、釋迦嶽、七面山、高原山等其腰ヲ繞ル、吉野山ハ滿山皆櫻樹ニシテ、春風ノ候櫻花開キテ爛漫タレハ、遊人四方ヨリ来リ賞スル者多シ、古ヨリ此山ヲ記スル者

少カラスト雖、其狀ヲ寫レテ、能ク實ヲ得タルハ、  
貝原篤信翁ノ巡覽記ナリ、今コレヲ節畧レテ以  
テ讀者ニ示サン、

凡此山ハ六田の方の麓より、奥院まで百餘町  
の間、民家無き所ハ左右皆並樹の櫻あり、又左  
右の傍も下の谷も、左右のかげをふ所の谷々  
も皆櫻多し稀ニ杉あり、二三月ハ花の世界ト  
云つべし、春を麓より先花咲初め、漸く山は咲  
きの布りて、奥の院まで終る、麓の花盛りをま  
て中の花盛りもある、中の花盛りをきて上の花



盛り開く其間大約三十  
日許あり又晚櫻を麓も  
も所々もありて春の季  
奥の院の花盛りの比盛  
り開くあり初櫻を高き  
所より早く咲くあり  
凡此山の櫻を皆一重  
をり八重櫻を山中及民  
家僧房も一株も無く寒  
風烈しき年或ハ風雨久

く續けば花の容色あはれ故は年より好否あり山僧曰く此四十年前は今よりも此山は櫻多し山僧又曰く凡此山の花上中下一時は開くは雖大約立春より六十五日より頃と盛りの最中より但年の寒温より遅速は吉野町より少く東の方の山より出づる所は櫻の盛り此より左の谷の内前より向ひ左より右凡方二十町許只一目は見えて皆花の林を面白き事なりて言ふればふり雪の曙は只ひく白く

こいためあり、此處花の處々咲き綻びたる粧、浮世の外の物とやと恠まる、凡櫻を雲透見えたるはあやめ山のかしけり又谷底ありてむらひは透間なき所はあり然見るとは紀あり、此處は四邊ノ山の傍谷の底ありと高き處より望み見て、假令は大なる盆をこの内を見る様なり、此の如き佳境は、大和の云ふは及ぶと恐くは見ぬ唐土を思ふ、其外のらば一國は更あり、子守より上の花は遅し、此山より櫻を切る事を禁じ、櫻木を薪と



らば故又樵夫も櫻を賣らばト薪の内は櫻  
 あれば里人うれと捨つぐれ偏は里人の櫻と  
 愛するも<sup>も</sup>た<sup>ら</sup>ば<sup>ら</sup>ば<sup>ら</sup>藏王権現の神木<sup>も</sup>惜<sup>し</sup>  
 給ふと言ひ傳へて神の崇と畏る<sup>る</sup>故あり、  
 篤信翁ノ記スル所此ノ如シ、凡櫻花ニハ數品ア  
 リテ、芳野ノ櫻ハ、單瓣ニシテ色白ク紅ヲ帶ヒ、花  
 ヲ着クルコト密ナリト云ヘリ松岡玄達所著ノ  
櫻品ニ詳ナリ  
 吉野山ノ外ハ、其山峰ニ春日山、三笠山、龍田山、多  
 武峰等アリテ、古人ノ歌集ニ、散見セル佳境ナリ  
 ト雖、皆記スヘキ者無シ、川ハ國ノ中央ヲ貫キ東

ヨリ流ル、ヲ吉野川トス、其源ハ大臺原山ヨリ  
 出テ、五條ノ南ヲ過キ紀伊ニ入り、紀ノ川ト稱  
 シ海ニ注ク、山間ヲ環流シテ北ヨリ流ル、ヲ十  
 津川トス、其源ハ吉野山ヨリ出テ、諸川ヲ併セ、  
 紀伊ニ入ル國ノ中央ノ諸川ヲ併セ西ニ流ル、  
 ヲ初瀬川トス、其源ヲ式上郡ノ初瀬ノ傍ヨリ發  
 シ奈良川、相川、廣瀬川、龍田川ト會シ、河内ニ入り、  
 大和川トナル、國ノ東境ノ諸水ヲ集メ、東流スル  
 モノヲ黒田川トス、其源ヲ十市郡ヨリ發シ、伊賀  
 ニ入りテ名張川ト合ス、

温泉

温泉ハ二所皆十津川ニアリ、一ハ湯原村、一ハ武藏村ナリ、能ク痼疾ヲ治スヘシ

物産

産物ハ、紙、漆、漉紙、墨、素麵、葛粉、奈良人形、團扇、煙草ノ類、又漆器、御所柿、干瓢、香魚等ニシテ、芳野郡ヨリハ多ク材木ヲ産ス、婦女コレヲ頭ニ戴キテ運送ス、

日本地理全誌卷之四終

